

2014 年度春学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	現代こども学科	科 目
-----------	---------	-----

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

昨年度、2013 年度春学期の授業アンケートで、全学平均値よりも、本学科が下回った設問項目は、Q4「授業時間外の学習に 1 週あたりどれくらいの時間を費やしましたか。」と Q9「授業のレベルはどうでしたか。」の 2 つであった。Q4 については、「本学科では、グループ発表の準備としての話し合い、レジュメ作成、作品制作などがかなりあり、学生はこれらを学習として位置づけていないと思われる。これらも授業時間外学習であることから、アンケートの回答の実施時に説明するように心掛けたい。講義科目についての文献や書物を用いた準備学習は、少ない傾向にあると思われる。学科全体が活動志向であるが、学問を学習する講義も重要である。この両者のバランスが今後の課題として残されている」、と総括したが、2014 年度春学期の授業アンケートでは、前年度に比べ 0.22 ポイントの改善がみられ、全学平均の 0.65 を上回る 0.68 となった。

Q9 については、昨年度は「全学平均 3.55 に対して本学平均 3.44 とわずかに低い値であった。講義科目に対して演習、実習科目が多く、作業を行う場面が多いということ、また「こども」に関する科目が多いことから学生がレベルの高い内容を学習していると感じていないことが予想される。授業レベルについては、学習内容レベルを学生の習得状況レベルや学習達成感などの意識に合わせるという改善が必要であると思われる」、と総括したが、2014 年度春学期の授業アンケートでは前年度より 0.1 ポイント改善がみられた。しかし、全学平均 3.56 よりも 0.2 ポイント低く、今後も改善を継続したい。

Q1「授業内容を理解できましたか。」の学科平均は 4.33（全学平均は 4.10）、Q2「授業に意欲的に取り組みましたか。」の学科平均は 4.32（全学平均は 4.10）、Q3「授業を通じて知的好奇心が刺激されましたか。」の学科平均は 4.29（全学平均は 4.02）、Q6「教員の授業方法は工夫されていましたか。」の学科平均は 4.23（全学平均は 4.02）と学科平均は全学平均よりもかなり高かった。学科科目の中に教職科目、保育士取得科目が多く含まれている。これらの科目は、グループによる模擬授業の実践、保育の模擬実践など、アクティブな学習場面が比較的多く取り入れられており、学生の意欲の喚起、知的好奇心につながっていると思われる。グループなど協働の学びには教員の事前の準備と授業方法の工夫が必要である。学生から、これらについて高い評価を得ていることは本学科として望ましいことである。大人数の講義科目についても、それらの授業の中に、主体的に学ぶ場面を部分に取り入れ、学生の意欲の喚起、知的好奇心の向上を実現するように工夫している。それらを継続しつつ、より学問的に高いレベルを学ぶ姿勢を学生に身につけさせるよう努めていきたい。

Q10 の DWCLA10 については、思考力が 56.1 と最も高く、次が分析力の 36.0、その次がプレゼンテーション力の 33.2 であった。創造力が 32.5、コミュニケーション力が 29.7、自己実現力が 19.2、思いやる力が 15.9、変化対応力が 12.6、リーダーシップ力が 6.8 と 10 項目中 9 項目が全学平均を大きく上回った。現代こども学科は「こども」を扱う大人の育成という側面が強いことから、授業で発表し、説明する場面が多く取り入れられている。それらの成果が現れていると察する。これらの点については、今後も維持できるように留意したい。また、全学平均よりもわずかに低かった自己管理能力については、主に少人数クラスにおいて改善に努めたい。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。